

News Letter

Number 25

日本獣医解剖学会報

March 10th, 2005

最後のメッセージ

山田 純三 (日本獣医解剖学会会長)

私が本学会の会長職に就きまして2年が過ぎようとしています。この間、皆様のご支援を得ながら、私なりに出来ることをやってみてまいりました。しかし、私の力不足で、私どもを取り巻く環境は年毎に厳しくなっており、改善されるどころか改善される現実を肌を感じつつ、本年3月31日付を持って帯広畜産大学を退職することになりました。

学会活動としては、学会編の教科書や参考書を出し、その印税を学会活動に使うことで、学会の活性化の道を模索しております。また、その成果は目に見えるものとしてこそ表れてはおりませんが、獣医学会全体で会員減少が続いている中、我々の学会は会員を維持しておりますので、決して悲観してしまうほど悪い状況ではないと信じます。

解剖の危機：私には気になることがあります。それは形態学研究の減少です。私がショックを受けたのは、我々の会員であり遺体解剖から形態学研究の重要性を主張され、国の内外の専門誌(NATUREを含む)に肉眼解剖学の論文を汎山出しておられる、遠藤秀紀先生(元国立科学博物館；現、京都大学霊長類研究所・形態進化分野・教授)の名前が昨年の会員名簿から消えたことです。私は、解剖学をこよなく愛しておられる遠藤先生から日本獣医解剖学会に三行半を突きつけられた、と感じました。このことは遠藤先生にとって我々の学会が存在意義を持っていないと判断された結果ではないでしょうか。私は遠藤先生を批判するつもりもありませんし、会員の皆さんを批判するつもりもありません。しかし、我々はこの事実について考える必要はあると思います。皆様でお考え下さい。私は、これ以上は書きません。

私は帯広という片田舎で獣医解剖学の教育・研究を39年間やらせていただきました。私は15年もの長い間、39歳まで助手を務めましたが、貧乏ながらも自由に楽しく仕事が出来ました。しかし、多くの方々、講義・実習に追いまわされ、管理運営、地域・社会貢献などいろいろなものに駆りだされ、一方では研究・教育評価で責められ、最小の投資で、最大の効果を短期間に出すことが求められ、肉体的にも精神的にもゆとりを持った教育や研究を行なうなど不可能な状況ではないでしょうか？私の退職の後、解剖のスタッフは2名になるようです。このお二人に重い教育義務が課せられることは容易に想定出来ます。現在、2名体制で獣医解剖学教育に携わっておられる研究室が鳥取、岐阜、東京農工、岩手と4つもあり、これに4月から帯広が加わります。私学は3名以上居られますが、学生定員が多いので更に厳しい環境下であることは言うに及びません。国立大学の大学法人化は地方大学の切捨てに繋がり、地方大学は昔の専門学校へと戻される気がします。私の母校である帯広は予算配分も、学部学生の所属も個人になり、組織上は解剖学研究室という名前すらすでに抹消されています。この現状に解剖学者(形態学者)として夢や希望そしてアイデンティティーを持って、獣医解剖学教育に専念出来ましようか？

解剖=ダサイ、古い、汚い、臭い、時間がかかる、インパクトファクターが低いなど、イメージが悪く、一方、分子生物学=格好良い、きれいで、先端的、データ-が出しやすい、インパクトファクターが高いなどとイメージが良い。当然の帰結として、若い人は後者に進む。ギルバートの発生生物学は知っていても、パッテンの発生学は知らない。勿論、

ボルクなんてみたこともない。昔、「形態学の復権」という本に回答を求めたこともありましたが。この本は私に明確な回答は与えませんでした。今、私は肉眼解剖学の講義と実習をしっかりとやるのが復権の原点であるように感じています。

悲観的なことばかり書きましたが、遠藤先生のように肉眼解剖学を中心に仕事をしてこられた先生が、しっかり評価され、世界に名だたる霊長類研究所の教授になられました。遠藤先生もこれが終わりではないし、更に高い評価を得るためには、霊長類研究所と言う我々にとっては羨望の素晴らしい環境の中で獣医解剖学者としてどのような花を咲かされるのか、どのような果実を残されるか、大いなる期待をもち、エールを送りながら見守りたいのです。そして、昔、セント・ジョルジがハンガリーと縊りを戻したように、いつかは獣医解剖学会に戻って欲しい、と願っております。その為には我々の学会が魅力ある教育と研究が行なわれている学会にならねばなりません。

国際公約：もう一つ大きな課題を残して私は大学を去ります。それはAsian AVA (Association of Veterinary Anatomists)の設立です(詳細は昨年秋のNews Letter No.24を参照ください)。昨日、韓国獣医解剖学会の会長であるソウル大学の獣医解剖学の李興植教授よりKAVAはAsian AVAに参加するとの意思表示がありました。台湾からも電子メールではありますが賛同の意思表示はなされておりますので、これで昨秋の総会で「韓国と台湾の合意が得られればAsian AVA設立に向けての行動を開始する」との前提つき承認事項を実行に移すこととなります。これは理事会および総会の承認を得て本学会が行動を起こしたことであり、大げさに言えば国際公約のようなものですから、日本獣医解剖学会を挙げて成功へと導く義務と責任があります。この実現のためのアクションプランは以下になるでしょう。

1. 準備委員会の発足(3月)
2. 基本計画の策定(下記内容)とそれの理事会と総会への提案と承認(3月29日)
 - 1) 設立総会と第1回Asian Conference of Veterinary Anatomists (ACVA:仮称)の開催場所と時期(2006年3月または2006年秋)
 - 2) The 1st ACVAのテーマ
 - 3) 資金計画・予算
 - 4) 招待者の決定法
 - 5) 4年毎の開催とし、第1回目は日本、第2回目は韓国、第3回目は台湾で行なう、など。

皆様の絶大なご支援とご協力をお願いします。アジアは日本に期待しています。

楽しかったけれど、やっぱり悔悟が残ります：私は、大学にいて獣医解剖学を教える立場にある人間は、研究は分子生物学をやっても何をやってもそれは自由でしょうが、肉眼解剖学もしっかり勉強して、学生に形態学は面白いと少しでも感じさせることの出来る講義と実習をして欲しいと願います。この姿勢をとり続けることが形態学者の証であると思います。私は最後まで獣医解剖学実習を続けました。講義だけでは物足りなかったのです。最後まで学生諸君と実習を一緒に出来たことが一番楽しかったですし、このことを誇りに思います。

私の大学人生での悔悟は、統合再編による国立大学獣医学科の教育改善を実現出来なかったことです。いろいろ失敗の要因は考えられますが、

◇第139回日本獣医学会学術集案内◇

2005年3月29日(火)～31日(木)

理化学研究所・和光市民文化センター

<http://square.umin.ac.jp/jsvs139/>

・スペシャルトピックレクチャー(サテライトフォーラムはスペシャルトピックレクチャーとして講演を行います)

3月29日 9:20～10:10 会場5(理研統合支援棟)

A-ST-1 動物の母性 mRNA の貯蔵と翻訳調節

松本 健(理化学研究所・辻本細胞生化学研究室)

動物の初期胚において、初期発生に新たに必要とされる蛋白質は、主として卵の中にすでに蓄えられていた母性 mRNA を翻訳することで作られる。カエルなどの両生類の場合、初期胚では速やかな細胞分裂とそれに必要な DNA 複製のために、転写は不活発な状態にある。つまり、動物の卵成熟から初期発生段階での遺伝子発現調節は、mRNA レベルでの調節と考えてよい。そのため卵母細胞では、核で合成された mRNA の多くが翻訳されずに蓄えられる。このような直ちに翻訳されない mRNA は、特定の蛋白質との複合体である貯蔵 mRNP (messenger ribonucleoprotein particle)として細胞質に存在する。この貯蔵 mRNP の機能としては、そこに含まれる mRNA を長期にわたり翻訳させずに分解から守る、あるいは、のちの体軸形成や分化に必要な蛋白質をコードする mRNA を卵母細胞の特定の部位に輸送し局在化すること、などがある。これらの機能の多くを mRNP を構成する RNA 結合蛋白質が担っていると考えられる。mRNA 上の特定のシス配列に結合して作用するトランス因子としての RNA 結合蛋白質のほか、mRNA をパッケージングする RNA 結合蛋白質として、Y ボックス蛋白質が知られている。mRNA を Y ボックス蛋白質と複合体を形成させることで、翻訳抑制、解からの保護という mRNP の機能を再現することができる。卵の成熟、受精、初期胚形成という段階ごとに、卵母細胞で蓄えられていた mRNA のうち、特定の mRNA がリボソームへとリクルートされて翻訳されるので、母性 mRNA の翻訳開始の制御には mRNP の構造変化が重要であると考えられる。一方、ウサギ網状赤血球ライゼットを用いた研究などによって、体細胞においても Y ボックス蛋白質が細胞質 mRNP の主要構成因子として mRNA の翻訳調節に関与していることが明らかにされてきた。これまでに、mRNA をパッケージングする Y ボックス蛋白質の量によって、その mRNA の翻訳活性が調節されることがわかっている。mRNP の形成と、それによる翻訳調節機構について紹介したい。

・シンポジウム

3月29日 13:30～16:45 会場5(理研統合支援棟)

A-SY-1 哺乳類辺縁系の構造

柴田 秀史

A-SY-2 高等哺乳類における鋤鼻嗅覚機構

岡村 裕昭

A-SY-3 齧歯類の鋤鼻系ニューロンの形態学的特性 - フェロモン情報(?)の伝達に関わる細胞達のすがた

横須賀 誠

A-SY-4 家畜の嗅覚と海馬機能—ブタを用いた嗅覚と海馬の神経応答に関する研究の展開—

齋藤 敏之

A-SY-5 鳥類辺縁系の形態学 — 記憶に関わる神経回路

阿閉 泰郎

・ポスター

3月29日(コアタイム 17:00～18:00) 会場PB(理研池の端棟)

AP-61 マウスの卵巣における転写因子 p63 の免疫組織化学的解析
中牟田 信明

AP-62 マウス胎仔生殖腺発生過程において発現する MFG-E8 の機能解析
石井 万幾

AP-63 Apoptosis in mono(2-ethylhexyl) phthalate-treated mice testes in vitro
Tay Tat Wei

AP-64 Biochemical Effects of Mono(2-ethylhexyl) phthalate (MEHP) on the Testicular Tissue Culture from Adult Monkey
Bibin Bintang Andriana

AP-65 II型アポトーシス細胞のブタ卵巣顆粒層細胞における細胞内シグナル調節
眞鍋 昇

AP-66 ブタ卵巣顆粒層細胞におけるアポトーシス抑制因子・cFLIP short form(cFLIPS)とcFLIP long form(cFLIPL)の発現解析
松田一峯畑 二子

AP-67 “3次元内部構造顕微鏡装置(3D-ISM)を用いたウマ卵巣の観察—妊娠馬における卵巣の内部構造について—”
猪飼 志保

AP-68 シェーグレン症候群モデルIQIマウスにおけるB細胞異常増殖に関わる下顎腺発現遺伝子のマイクロアレイ解析
今野 明弘

AP-69 マウス CD8+T 細胞におけるアクチビンの発現とその役割
小川 健司

AP-70 RNAi 法によるデコリンの遺伝子抑制がコラーゲン細線維のサイズと走行性に与える影響
保坂 善真

AP-71 膝関節の靭帯の構造特性
竹花 一成

AP-72 ウマ浅指屈筋腱のコラーゲン細線維の形態は部位によって変化する
渡辺 敬文

AP-73 ヒソジにおける延髄の PACAP 結合部位と上部消化管機能の調節
翁長 武紀

AP-74 ウシ下垂体前葉細胞における Leptin と Leptin receptor の発現
小笠原 英毅

AP-75 マウス腸管上皮細胞株(MIE)の樹立とその性状
金谷 高史

AP-76 クロミンクジラ(Balaenoptera bonaerensis)の胃粘膜細胞に関するレクチン組織化学的研究
下川 哲哉

AP-77 Protective effect of Pleurotus Cornucopiae mushroom on CCl4-induced hepatotoxicity
橋本 善春

AP-78 マウス腎臓における hepatic nuclear factor (HNF)4a の発現
昆 泰寛

AP-79 5/6腎臓摘出幼若ラットの残存腎臓における腎障害への iNOS の関与
三野 将城

AP-80 イヌの味覚感受にかかわる蛋白質および糖鎖発現の乳頭間における部位差
谷口 和美

AP-81 幼若ウシへの分岐鎖アミノ酸の過剰投与が成長におよぼす影響
李 俊佑

AP-82 Production of cow reproductive para rubber models as artificial insemination simulator
Apinun Suprasert

AP-83 3次元内部構造顕微鏡とRVエディタが切り開く新しい解剖学
中村 佐紀子

懇親会案内

今回の学術集では、解剖関連の講演やポスターなどの全ての発表が、会期初日の3月29日(火)に集中しております。そこで、当日の日程終了後、懇親会を下記の通り執り行います。多くの皆様方のご参加をお待ち申し上げます。

記

日時:3月29日(火)18:00-20:00

会場:理化学研究所・広沢クラブ(2F)

会費:¥3,000- (当日徴収)

になりました。(株)学窓社よりの連絡を受けて、急遽、改訂 2 刷の発行に向け、各大学獣医解剖学講座の先生方にその原稿をご依頼いたしましたところ、ご協力により短期間で改訂2刷用の原稿を整えることができました。2004年10月5日に改訂2刷1,500冊が発行されました。先生方のお力添えに対しまして、厚く御礼申し上げます。

複雑で多岐にわたる動物のからだの仕組みを、初学者にいかに平易に理解してもらうか、日頃教壇に立つ我々として常に腐心するところですが、本書の内容はこれらをサポートする入門書として極めて手頃なものになっています。解剖学の鉄則はあくまでも「標本を穿つほど観察する」ことにありますが、本書は実習などの補助教材としても有効に利用できるでしょう。

編集委員会委員長 月瀬 東

編集後記

中部国際空港も開港し、愛知万博も始まろうとしています。世間では環境・自然との調和が話題になっていますが、獣医解剖学会は、獣医学全体の中で十分に調和のとれている存在でしょうか？そろそろ獣医解剖学の不動の位置付けを確実にするために動き出しているかがでしょうか。獣医解剖学の底知れぬ魅力の継承には会員個々の努力と協力が必要ではないでしょうか？そんなこんなを思う北の住人です。

編集子

学窓社 好評新刊案内 !

株式会社 学窓社, 〒113-0024 東京都文京区西片 2-16-28, TEL 03-3818-8701 FAX 03-3818-8704

ご注文と新刊情報は<http://www.gakusosha.co.jp/>もご利用ください。

新刊！ 写真図表がグレードアップした良質な獣医組織学の教科書。写真 CD-ROM 付き

獣医組織学 第三版

A4 変型判上製本 / 326 頁 / 総カラー, 写真図表多数 / 日本獣医解剖学会 編 定価 9,975 円(本体 9,500 円 + 税) 送料 450 円 3月下旬発刊予定

新刊！ 新たに外皮系を加えてリニューアルした家畜比較解剖学の教科書

家畜比較解剖学 第二版

B5 判上製本 / 395 頁 / 見上 晋一・武藤 顕一郎 共著

定価 8,400 円(本体 8,000 円 + 税) 送料 380 円 3月下旬発刊予定

新刊！ アメリカにおける最も新しい臨床獣医学書として知られるシリーズ

獣医臨床シリーズ 2005 年版(THE VETERINARY CLINICS OF NORTH AMERICA) B5 判上製本 / 予約受付中

33-1 細胞診断学 / 定価 12,600 円(本体 12,000 円 + 税) 送料 340 円

33-3 腫瘍内科学の進歩 / 定価 14,700 円(本体 14,000 円 + 税) 送料 340 円

33-6 臨床血液学 / 定価 16,800 円(本体 16,000 円 + 税) 送料 340 円

34-1 ニュートラシューティカルスおよびその他の生物学的治療 / 定価 18,900 円(本体 18,000 円 + 税) 送料 340 円

34-2 犬・猫の耳科疾患 / 定価 14,700 円(本体 14,000 円 + 税) 送料 340 円

34-3 眼科治療薬 / 定価 14,700 円(本体 14,000 円 + 税) 送料 340 円

34-4 臨床腎泌尿器学 / 定価 14,700 円(本体 14,000 円 + 税) 送料 340 円

34-5 心臓病学の進歩 / 定価 13,650 円(本体 13,000 円 + 税) 送料 340 円

34-6 神経筋疾患 / 定価 15,750 円(本体 15,000 円 + 税) 送料 340 円

MEMO